

## 宮城県からの供与機材の利用状況の報告（号外２）

22年1次隊 菅野 将央

### 1. はじめに

2011年11月24日にJICA草の根技術協力（地域提案型）マラウイ国「農業水利人材育成支援事業」農業水利技術研修（英文：JICA Partnership Program (Local Government Type) Project for Community Based Irrigation Management Counterpart Training for Irrigation Technology）がマラウイ政府、宮城県との覚書が締結され、この事業の一環として、測量機材をマラウイ政府に供与された。機材の使用状況および業務改善状況について報告する。

### 2. 供与機材

宮城県より供与された機材はオートレベル2台、三脚2台、標尺4本、デジタルカメラ2台と付属品である。そのうちオートレベルおよび三脚各1台を本事業のカウンターパートである Lilongwe Irrigation Services Division（以下 LLW ISD）に供与し、その他1台を隊員の配属先である Dedza District Irrigation Office（以下 Dez DIO）で使用することとした。理由としては、供与機材の稼働率を上げ、技術職員が機材を使用できる機会を増やすことが目的である。



写真1 供与機材



写真2 オートレベルの点検

### 3. 現在の使用状況

供与以前、事務所が所有する機材は15年以上経過したオートレベル1台のみであった。また、各県事務所間で1台の機材を融通し合うことがあり、主業務である水路の勾配確認等の施工の進捗確認等に支障を来し、また迅速さに欠けていた。Dez DIOではこの点において、大幅に改善できたと思われる。また、ドナーから供与または貸与された機材を粗雑に扱い短期間で使用不能になること、紛失する等の事例も過去にはあったように見受けられた。さらに、職員の機材使用に関する知識等の不足により、ほとんど使用されないまま捨て置かれる事例もあった。今回供与された機材に関しては、配属先には使用に精通した職員が2名おり、他5名の職員も業務を通して取り扱いを習得した。現在は、工事進捗管理の他、計画策定のための縦断図作成等精力的に測量を実施している。機材の管理については、隊員とカウンターパートの間で協議しカウンターパートを機材の管理責任者として、適正な管理が行われている。



**写真3, 4 測量の状況（水路勾配の設定）**

各県の事務所は Natural Resource College ( 2 ) から 2 ~ 3 名の学生を実習のため約一ヶ月間受入れている。配属先事務所では、オートレベルを使用して実地前に機材の据付や測量手順について隊員と職員が指導を行った。実習生から聞き取りをしたところ、灌漑クラスは1学年100名程度で、機材もなく座学が中心で機材に触れる機会が非常に少ないとのことであった。測量の実地演習は実習生からも好評を得た。さらに、マラウイ大学ブダ校（農業系の4年生大学）、ムズズ大学（マラウイ北部の大学）からも各1名ずつ実習生を受け入れ、職員および協力隊員が現地業務で測量技術の指導を行った。



**写真5, 6 学生に対する測量実習（事務所前の道路にて）**

デジタルカメラは、工事進捗等の記録を中心に行い、写真を活用した資料作成を実施している。これらの資料は、各ドナー（アフリカ開発銀行等）に提出する資料にも利用し、わかりやすいと評価を得ている。

#### 4. まとめ

これまで述べてきたように、供与機材はよく活用（平均週3回程度）され管理も適正に行われている。また、計画策定のための測量は LLW ISD と協働して測量を行っている。副次的なことであったが、政府職員以外にも将来技術者となる学生に対して短期間であるが測量技術を指導できたことは大変有意なことであった。機材供与において、重点を置いたことはそれらが『公共財』であることを理解してもらうことであった。カウンターパートを始め、配属先の職員に理解を得られ大切に機材を扱うようになったことも業務改善の一つといえる。

- 1 リロングウェ管区灌漑事務所 Lilongwe, Dedza, Ntcheu 3 県の各出先機関を管轄
- 2 リロングウェにある農業短期大学。多くの農業系政府期間の職員が卒業している。